アメリカ留学日記

馬場　健夫

成田空港で飛行機が離陸する時に色んな思いがこみ上げて来て思わず涙を流してから、もう三ヶ月が経とうとしています。自分は早稲田大学の交換留学生として、一年間カリフォルニアのサンタバーバラ校へと留学しています。

大学が海に面しており、気候も温暖でとても過ごしやすいところです。この大学はパーティー（通称パーティースクール）とサーフィン（Newsweek2005 の America's Hottest University for Surf and Ski に選ばれています）が何といっても有名です。それでも 2004 年のノーベル物理学・経済学賞の二人がこの大学から出ているので、とてもメリハリがあるバランスの取れた大学だと思います。この冊子を見る方は海外赴任生活での教育に興味がある方々だと思いますが、ここでは日本から来た一人の大学生が初めてのアメリカ生活で感じたことなどを紹介できたらと思います。

まずは、自己紹介から。自分の海外経験は、三歳から八歳までタイのバンコクに親の転勤の都合で住んでいました。日本人学校に通っていたこともあって、今ではタイ語は全く覚えていません。バイリンガルになれるチャンスを失ったことを、今でももったいないと思います。皆さんのお子さんも、バイリンガルになれなかったらきっと同じことを思いますよ！（笑）それからはずっと日本で生活していました。中高時代は弓道に熱中。思い出すのは、ほとんど弓道。大学には内部進学し、今度は色々なものを経験したいと思い運動系（バドミントン）、学術系（自主ゼミサークル）、国際学生交流団体などのサークルを掛け持つ毎日。そんな自分は、どうして留学という選択肢を選んだのでしょうか。

直接的なきっかけは正直に言ってしまえば単純で、身近な友人の数人が留学を志望していたからです。それからは留学を現実的な選択肢と考えはじめ、自分の中で自問自答しながら煮詰めていきました。自分の留学志望動機を、松本先生風に５パラグラフエッセイ風に紹介してみます。

留学する目的は「国際公務員（国連や関係機関 NGO などの職員）になって国際政治の場に貢献できるようなスキルを身につける」ことです。手段として具体的には三つあります。一つは「国際関係学、特に紛争解決に関する勉強を英語にて行うこと」。国際公務員になるためには、大学院（海外が望ましい）での Master、Ph D が必須だからです。二つは「アメリカで日本とは異なった文化、人々に触れて多様な価値観を理解すること」。国際機関の職場での交渉には間違いなく必要な経験です。三つは「単身でアメリカに乗り込んでつらい環境に自分を追い込むことにより、自分を人間的に成長させる機会にすること」。これは弓道部時代に由来するのでしょうが、どうやら自分は過酷な環境、目標の元に身を置きたいという体質なようです。

こんな二十歳の BABA TAKEO がアメリカにノコノコとやってきました。もう来年の夏までは帰れない。やるしかない。できるだけ強がって生きていこうと決めました。

松本先生の留学サバイバルスキルアップの授業にてエッセイを論理的に書いていく過程で、自分の志望動機を詰めていき自分の目標を明確化できたことが、つらい時の支えとなりました。

留学も三ヶ月を迎え、初めてのアメリカの大学での秋学期が終わりました。今までの生活を振り返り、ここでは留学してつらかったことを一つ記します。

カリフォルニア大学サンタバーバラ校